令和元年度　砂川市「春蘂柳」　栽培管理記録【そらち森林組合 管理地】

■植林面積（全体面積＝170.8 ㎡ 51.7 坪）　W:13.0M×D:18.0M　　【 標高：100M 】

●各部位　ＰＨ調査 ／　植込み実施　　■全体森林面積①→0.1ha（内：0.017ha）

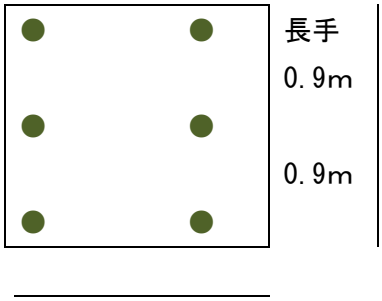
春蘂柳栽培試験	日付	令和 元年 6 月 27 日	天気	晴れ	気温	28.0℃
定植日	日付	平成 30 年 5 月 17 日			1 年木	375 日目

敷地サイズ：W＝13.000mm×L=1　18.000mm（変形地）　（畝＝7 列×8 本～17 本=100 本）

■春蘂柳 栽培配置

※各 0.9m×2.1m～1.3m毎に定植（定植時サイズ→≒90 cm）　2㎡＝1 本

◆全体 1 ha の定植目標本数→5,000 本植え（※通常の森林計画では 2 千本）約 2.5 培規模



●砂川山林 管理地分→納品「春蘂柳」100 本分　　●現場定植時→≒80 cm

凡例：赤色→枯れ・無　　総数／　生育率（85%）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	100 本→85 本	
1	103 cm	49 cm	76 cm	85 cm	40 cm	40 cm	27 cm	56 cm	枯れ	40 cm	18	16
2	69 cm	枯れ	72 cm	60 cm	62 cm	62 cm	24 cm	46 cm	737 cm	30 cm	17	16
3	142 cm	97 cm	枯れ	100 cm	88 cm	121 cm	68 cm	68 cm	67 cm	74 cm	17	15
4	95 cm	75 cm	63 cm	69 cm	42 cm	72 cm	54 cm	68 cm	45 cm	30 cm	15	12
5	78 cm	62 cm	74 cm	74 cm	40 cm	枯れ	32 cm	70 cm	75 cm	33 cm	15	12
6	61 cm	10 cm	30 cm	45 cm	50 cm	枯れ	42 cm	枯れ			10	8
7	枯れ	60 cm	枯れ	枯れ	30 cm	30 cm	29 cm				8	6

上側→西写斜面　　下側→南斜面

■前回調査日からは樹木削減は無し、現状維持　※鹿による食害があったが、順調に育成中。
本年は積雪量が少なく他ではエゾヤチネズミ被害が多いが本地では影響がない。一部雪害により倒たが、曲がった箇所から新芽がでており、育成には問題無く成長しつづけており強靭である。

●育林俯瞰

令和元年度「春蘂柳」砂川　そらち森林組合管理地

◆ニゲッターＺＥＯ散布（１ヶ所　50～60ｇ散布）

●雪害による倒れ（復元し成育している）

●鹿の食害あったが問題なく成長　●ニゲッターＺＥＯ：１０キロ袋　●参考→ぐいまつ（約 80 ㎝）

■令和元年　第１回目　調査および考察

- ヒトデ抽出液＋ゼオオライト混合材（ニゲッター原液）散布。散布目安：１ha＝250 kg～300 kg
- 越冬後初めての植樹育成調査である。植樹時から―15 本減による越冬２年目、直前の本数が維持され順調に成育している。
- 「春蘂柳」が定着すると鹿による引き抜きが無くなり、新芽および、新葉を捕食しており１／３の育成範囲で被害が見受けられた。
- ゼオライトによる植物活性効果と忌避性により持続ができることから樹木にも安心で問題無く今後の土壌資材と鹿対策の複合堆肥として今後も散布実施を継続する。
- 本件土壌は、伐開後２年目の土壌で荒れ地ではあったが、今後２年目以降の急成長に期待され５年木時の伐採予定時には直径約２０㎝となり＝1ｈａ→４，０００本の収穫数に期待がもてる。
- 春蘂柳が３年木になると枝葉ものび、密集栽培により低地の枝から鹿が乱入できないことで防御林としても期待ができる。
- 特に広葉樹植林後の鹿被害が多々報告されており全滅したケースもあることから、春蘂柳を育成しながら外周に植樹することで進入を阻止、長期的な鹿被害対策木としても注目され樹木である。
- 北海道内での鹿被害額が約３０億円を超えており狩猟者の減少、耕作未放棄地等などにより今後鹿を抑制することが困難となり一層農林被害の防止が大変になることから、「春蘂柳」育成により森林保護と早期伐採による経済サイクルにも期待できることから地産地消による育林にもなる。